

## 特別講演 2

## 宇宙芸術ミッション：ISS-国際宇宙ステーションに於ける芸術実験報告

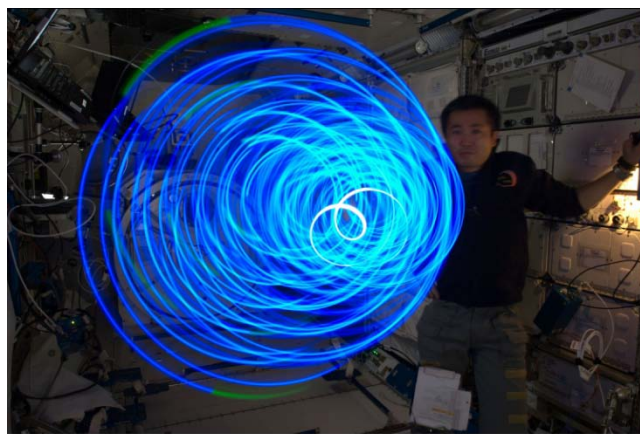
逢坂 卓郎

(筑波大学大学院 人間総合科学研究科  
芸術専攻)

私は 2001 年より JAXA との共同研究を通して、宇宙と芸術についての可能性を考察してきましたが「地球外からの視点があれば、物を発見したり、物をつくろうとする意欲、そして新たな倫理観も生まれない。」という土井宇宙飛行士の言葉は印象的でした。宇宙には、人間にとって非日常である無重力環境が存在します。芸術は日常の中から非日常を発見し新たな美意識を提示する行為ですが、非日常的な視点から日常を見直す宇宙飛行士の体験は芸術的行為と重なり大変興味深いものです。2008 年から ISS-国際宇宙ステーション JEM-“KIBO” で始まった私の芸術実験と、作品の制作プロセスを紹介します。このミッションで採用された作品は筑波大学の体育、情報工学、生物の各専攻、及び工作部門の協力を得て制作された学際的な成果であると考えています。また、JAXA 主催の「無重力学生フライトコンテスト」で連続受賞した大学院学生の無重力芸術の提案などを紹介します。「重力こそ最初に海を捨てた生物が犯した原罪なのだ。海生の哺乳類を真似て我々が海へと帰還する時、初めて贖罪がなされるにちがいない。」とフランスの海洋学者 J・Y・クストーは述べています。私達は海への探求と同時に宇宙空間へ歩を踏み出し、クストーの言う地球生命発生の場である無重力の世界へ回帰したのです。「地球外からの視点」と「無重力環境」は、私たちへ私たちの存在の意味と如何に生きるかという事を問いかけているような気がします。宇宙に於ける芸術のテーマも、まさにここにあるのです。



墨流し水球絵画 08. 9. 11  
Gregory Chamitoff 宇宙飛行士



回転する光彫刻 "Spiraltop" 09. 5. 2  
若田光一宇宙飛行士 実施：JAXA